

令和6年度外国人児童生徒等教育充実のための研究協議会 記録

令和6年11月22日（金） 会場：玉村町立中央小学校

公開授業

日本語教室（取り出し指導）

1年3組・4年2組（入り込み指導）

6年3組



実物の
提示
必要感の
ある魅力
的な活動
理解支援
情意支援

他の児童が作った絵本の読み聞かせを行い、活動への意欲を高める。また、活動への見通しがもてるようにする。



音読み、訓読み
の違い等への戸
惑いに対して、
一文字ずつ、繰
り返し説明
理解支援
記憶支援

「わたしは〇〇へいきます。」「わたしは〇〇へいきました。」一つの文を基に単語を入れ替えて新しい文を作っていく。書き取り、話す、聞くを繰り返し、テンポよく練習できるようにする。



T「ぶるぶ
るふるえて
みよう。」
（動作化）
理解支援
表現支援
記憶支援

文を作りながら単語の意味を確認する。
T「としょかんって何をするとところ？」
T「ふるえるってどういうこと？」



母語によ
る安心感
理解支援
情意支援

児童同士
の会話
自律支援

理解が難しい言葉は母語を交えて説明することで、安心して学習できるようにする。学習した表現を使って児童同士で会話をする活動を行う。



分かりや
すい言葉
で学習で
きる安心
感
理解支援
情意支援

一斉指導の中でも、易しい分かりやすい言葉に言い替える等、個に応じた支援を行う。



見守り
自律支援

一斉指導の中で状況を見て、全ての児童に対して、必要に応じた支援を行う。

【協議テーマ】 日本語指導が必要な児童生徒に対する支援のための連携の在り方



< 班別協議で話し合われた内容 >

- ・授業では教員が入り込んで学習言語を学べるようにする。
- ・入り込み指導の際には、常に付き添うのではなく、子供が困った時に支援する。自律した学習者になれるようにという視点を共有する。
- ・日常会話はすぐ覚えるので、友達とのコミュニケーションを大切に
- ・言葉が分からない、伝わらないと自己肯定感が低くなってしまうので家庭や周囲のサポートが必要である。
- ・関わる先生が多いと、「個別の指導計画」が連携の核となる。
- ・図書担当と連携し読み聞かせを行う。子供はお話の内容に興味をもち、日本語の力につながる。

< 参加者の感想より（公開授業含む） >

- ・他の市町村や校種の方々と、地域の実情や日本語指導に際しての課題について、連携という視点から充実した話し合いができた。
- ・日本語指導員、助手との連携等、組織的できめ細かな指導体制や、日本語教室、校内の掲示物等の環境が参考になった。
- ・入り込み指導、取り出し指導の両方を参観できたので、今後の指導の参考になった。
- ・学校の発表等について、その場で質問ができる時間があるとよかった。
- ・授業参観後に研究会があると、指導法の良さ、改善点などを共有できると感じた。

まとめ

- ① 日本語教室担当と関係職員との連携・情報共有 個別の指導計画の活用・指導記録の共有
- ② 児童生徒の努力の見える化 学習習慣・学習内容の定着 宿題シールの活用
- ③ 他校との連携における情報共有・校内の情報共有 ICTの活用（指導記録・生活の様子）
- ④ 学校内の受け入れ環境づくり・掲示物 安心感 互いの文化や多様な価値観を尊重し合うチャンス